

信じる者は救われる

2023年1月15日

使徒の働き 16章16～34節

序：パウロの第二次伝道旅行

アジアからヨーロッパに福音が伝播 ⇒ マケドニア（ギリシャ北部）

パウロ、シラス、テモテ、ルカ

最初の宣教地はピリピ

最初の回心者はリディア（と家族）

I. 若い女奴隷との邂逅

占いの霊につかれた女奴隷 = 悪霊の支配

神話：蛇・龍

占いによって、主人たちに多くの利益をもたらした（金儲けの道具）

パウロたちを悪霊が見抜いた : いと高き神のしもべたち

↓

救いの道を伝えている

賞賛ではなく戦慄

パウロは女奴隷の中に住む悪霊の叫びと見抜いて、悪霊に出て行けと命じた

イエス・キリストの御名によって

人間パウロの力ではない

占いをする悪霊が追放されて、占いができなくなった女奴隷

彼女によって主人たちは金儲けができなくなった

恨みから、パウロとシラスを捕らえ、裁判をする広場に連行、騒乱罪で告訴

長官たちも役人も群衆も、二人に反対・対抗 正規の手続きなしに鞭打ち、投獄

テモテとルカは逮捕されなかった

ユダヤ人排斥（クラウディオ帝がローマで開始）

II. 牢の中のパウロとシラス

長官たちの不当な扱い ①裁判もせず、一方的に処罰（衣を剥ぎ、鞭打ち）

②牢に入れ、看守に厳重な見張りを命じた

↓

看守

③奥の牢に入れ、足かせをはめた→不自由 + 激痛

↓

パウロとシラス

④神に祈り、神を賛美

囚人たち

⑤聞き入っていた

神

⑥突然の大地震は二人への神の応え

祈りと賛美は神の力を引き出した

III. 看守と彼の全家の回心

(1)看守の驚愕

- ①獄の扉は全部開いていた
囚人たちは皆好機とばかり逃亡したにちがいない
責任をとって自害しようとした
- ②囚人たちは一人たりとも逃げなかった
パウロは看守に早まって自害などしないよう叫んだ
皆ここにいる！

(2)看守の畏怖と救いへの真剣な求め

- ①信じられないような光景（大地震による崩壊、逃げない囚人）
神による介入 二人の何か特別な力？
- ②救われるために何をしなければならないか？と問う
身体の救いではなく、たましいの救い
罪の自覚、罪の報酬は死
- ③「主イエスを信じなさい」との導きに応えた
- ④二人の語る福音を自分と家族全員が聞いて、信じた
- ⑤信仰のしるし、バプテスマを受けた
- ⑥新生した者の内なる変化は外に行いの実を結ぶ
すぐに二人を引き取り、打傷を消毒した（奉仕）
囚人と監視者という関係 ⇒ 師弟関係、同じ神に属する信仰の家族
食事をともにして喜び祝った ⇒ 聖徒の交わり

Ⅳ. ピリピでの宣教のまとめ

- (1)リディアとその家族、看守とその家族の回心 ⇒ ピリピ教会の核・土台
- (2)社会的階層の異なる人々誰であろうと、主イエスを信じる信仰によって救われる
- (3)救いに至る過程は人によって異なる
- (4)神のことばを聞くことから始まり、聖霊による罪の自覚、悔い改め、イエスは主と心で信じ、告白し、バプテスマを受けて、公に信仰生活を歩み始める
- (5)福音の宣教には、悪霊との戦い、反対者たちとの戦いがつきもの、必ずある
- (6)勝利は、神への祈りと賛美に対する神の応えとして与えられる
- (7)キリスト者には、いかなる環境・状況においても、主にあって自由と希望がある
- (8)祈りは神の無限の力を引き出す神から与えられた手段・特権である
神に信頼して、十分に用いるならば、主の望まれる大きな変化、解決を生む